

## <第2日目 テーマセッション 報告要旨>

### 国際金融規制の動向と証券市場

座長 勝悦子(明治大学)

#### 【パネル要旨】

リーマンショックから8年経過し、この間主要国金融政策の量的緩和政策のもと、証券市場は平常に戻ったようにも見られる。しかし、昨年のチャイナショック、本年に入ってからの日銀のマイナス金利導入、そして6月の Brexit など、世界的リスクは封じ込められていない。

2008年当時、CDO 組成、それに伴う CDS 取引の増大、およびレポ取引など、投資銀行、銀行、保険会社でレバレッジが急速に高まり、リーマンブラザーズ破綻が引き金となって、世界の証券市場、銀行システムは大きく同様した。加えて、流動性枯渇などが、リーマンショックのマグニチュードをさらに大きく振幅させた。リーマン破綻直後に、アメリカでは公的資金が注入され、国際金融規制については、バーゼルⅢの導入など、規制強化に大きく舵が切られた。さらにアメリカでは、ドッド=フランク法、ボルカールールなどにより、投資信託、ヘッジファンドなどとの取引が規制されることになり、またイギリスでも、FSA の解体やイングランド銀行への監督機能の委譲などがみられた。さらに EU では、MiFID II (第二次欧州金融商品市場指令)が 2014 年4月に欧州議会で可決し、商品取引の EU 域内での指針が示された。

本パネルでは、このような国際金融規制の強化のもとで、証券市場はどのように変貌したのか、マクロプルーデンス政策のあり方、規制と収益性の狭間での金融機関のスタンスなどについて、規制当局、金融機関、アカデミア、それぞれの立場から議論したい。日本のみならず、世界の規制の潮流について議論することとしたい。

#### 【パネリスト】

- 1 三輪純平(金融庁)
- 2 宮内惇至(みずほ証券、前日本銀行)
- 3 浅井公広(日興アセットマネジメント)